

(別記様式)

令和元年度 京都府立向日が丘支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>◆教育目標「自分らしく 人とともに 今を生きる力を」の実現に向けた方策を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中で幸せな人生を実現する力を獲得するために、一人一人の可能性に着目し、徹底して可能性を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p> <p>◆地域社会と連携・協働し、共生社会の形成に積極的に貢献する学校を目指す。</p>	<p>文部科学省「平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」指定を受け、事業を活用し、全校での取組を進めた。</p> <p>○学校経営 地域社会の様々な機関と連携した取組の推進や情報発信によって、地域の中の学校として望ましい理解の広がりが見られる。「働き方改革」については、組織的な取組が進められず、課題となっている。</p> <p>○教育活動 新学習指導要領の趣旨を具体化した授業改善を研究協力者、先進校等に学びながら全校で取組を進めてきている。更なる授業改善と地域社会との共有を進める。地域支援については、関係機関との連携が強まる中、多様なニーズに応える相談支援等を更に丁寧に進める必要がある。</p>	<p>文部科学省「平成31年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」指定を受け、事業を活用し、以下の重点に全校で取組を進め、事業終了後への継続を視野に一定のまとめを行なう。</p> <p>○学校経営 ①地域社会と協働し、地域社会に貢献する学校経営の推進 ②特別支援学校に勤務する教職員、教育公務員として、指導の専門性に加え、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び子どもを愛し、育む情熱をもった人材の育成 ③「働き方改革」の具現化による、一人一人の教職員が、澁刺、颯爽と働く学校経営の推進</p> <p>○教育活動 ①実践研究充実事業に取り組むことから、全ての学級における授業改善、教育課程改善を進める。 ②地域関係機関及び地域社会との協働による教育活動の積極的展開、センター的機能の積極的な発揮により、地域におけるインクルーシブ教育の推進及び共生社会の形成に貢献する。</p>

評価	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	・学校経営方針を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・学校経営方針を各学部、寄宿舎、各分掌で意識した一貫したマネジメントの実施	B	B	<p>文科事業を活用し、授業改善、地域社会連携に全校で取り組むことができた。この事業に取り組む過程において、社会に開かれた学校経営を進めることができた。業務改善に向けては、多くの分掌等で取組を進めた。残業時間は、昨年度比では下回っているが、次年度以降、更に計画的に取組を進める。</p> <p>様々な外部専門家を活用し、新学習指導要領が示す方向性や社会の変化の中で求められる知見、特別支援学校の授業等において求められる専門性について深めることができた。</p> <p>多様な相談ニーズに巡回相談員や校内人材を活用し、効果的に対応することができた。</p>
		・学校予算の適切且つ計画的な執行	B		
		・各学部、各分掌等における業務内容の徹底した精査による総業務量削減 (京都府「教職員の働き方改革実行計画」を踏まえた計画的取組の実施)	B		
		・各学部と寄宿舎間の日常的な連携強化及び危機対応時の適切な連携	B		
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・本年度の重点の達成及びニーズに基づいた研修会等の組織的計画的実施	A		
		・教職員、保護者の希望進路実現への意識を高める研修会等の実施 (外部人材等を活用した職員研修の計画的実施 1回/年 以上)	B		
		・職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	B		
		・「向日が丘相談・支援センター」の機能を生かした、地域のニーズに応える特別支援教育の推進	・地域の学校等に特別支援教育への理解と対応を実現する特徴ある取組の実施		
	・個別の指導計画等の作成につながる教育相談の実施		B		
	・校内巡回相談員の積極的活用等による組織的な相談支援の実施		A		
	・幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携・協働の強化		B		

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と協働する学校経営の推進 ・学校評議員、保護者、地域住民等による学校評価を活用した学校経営の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、学校だより等を活用した学校情報の積極的発信（HP更新5回/月） ・アンケート等による学校の自己評価の実施及び公開（2回/年 以上） ・学校評議員会議の機能を生かした外部評価の実施（3回/年 以上） ・地域社会連携部の機能を生かした地域連携の推進 	A	B		様々な方法を駆使し、学校の情報や児童生徒の学びの姿を発信することができた。また地域社会連携部の機能を生かし、地域と連携協働する授業スタイルが大きく広がった。今後も、地域社会と連携協働する学校を目指す。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、緊急対応訓練の計画的実施（全校年2回以上、寄宿舎年5回以上） ・PTAとの協働による災害発生時マニュアルの作成（1学期中） ・医療的ケア担当者会の機能を活用した安全で適正なケアの実施 ・児童生徒一人一人の人権を大切にする取組の推進（いじめ対策委員会による調査と対応 2回/年） ・教具等の安全点検の組織的な実施 ・ヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化 	B				B	B
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・社会との協働を大切に「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 ・児童生徒一人一人が共生社会に貢献する力を身に付ける指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部単位及び全校での授業研究会の実施（目的に応じた外部専門家の活用） ・先進校等への視察派遣による授業改善に生かせる情報収集と学部・全校での情報の共有 ・社会とのつながりを意識した授業実践の積極的展開 ・ICTを活用した授業改善の積極的展開 ・学部間の学びの連続性を意識した教育課程の整理 ・社会に開かれた行事としての「学校祭」の企画実施 ・ニーズに基づく居住地校交流及び学校間交流の計画的な実施 	A	B	B	外部専門家による参観助言、学部研・全校研における指導助言により、「社会に開かれた教育課程」の理解が深まり、「学校祭」に向けた取組も含めた地域社会と連携した授業改善が進んだ。今後は、学校として系統性ある教育課程を充実させ、学びの連続性の中で、地域社会と連携協働した授業を行なうことから、一人一人の可能性を最大限に育む教育を目指す。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・組織的計画的な進路指導による高等部3年生全員の希望進路の実現 ・組織的な企業開拓の実施 ・全校保護者への進路情報の提供・共有 	B				B	乙訓就労交流会への積極的な関与が、結果的に就労に帰結するなど、関係機関との効果的な連携が進んだ。進路指導の中では、高等部段階だけではない、進路の視点をもった継続的な指導の必要性が浮き彫りとなった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の希望進路の実現 	B				B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による希望進路の実現に向けた取組の推進 ・寄宿舎における指導、支援の充実 	B					

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の地域社会と連動した授業改善の取組は大いに評価できる。地域の学校から見て、安心して任せられる学校である。 ○地域社会との連携を一層強め、小中学校との交流及び共同学習も含めて、ともに成長できる取組を粘り強く継続して欲しい。 ○多様な児童生徒の自立や豊かな自己実現を目指して、特別支援学校ならではの質の高い教育を目指して欲しい。 ○多様な教職員が、チームとして働き、そのことで教育効果をあげる学校経営を目指して欲しい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2年間の文科省研究指定を軸とした学校経営の成果を踏まえ、以下を重点とし、「PLAN5」をとおして全校で取り組む ○新学習指導要領実施にあたり、「社会に開かれた教育課程」の趣旨を具現化する授業改善、教育課程改善に組織として取り組む。 ○上記の基盤となる地域社会と連携協働する学校経営を着実に進める。 ○卒業後に社会の一員として、その人らしい社会貢献を可能とする力を育む、進路の視点をもった継続的指導が行えるように全校的な取組を充実させる。 ○教職員の多様な働き方を尊重し、総合力として専門性の高い指導力のある学校を目指す。
---------------	--